

鉄道インフラを含むまちの景観 山手地区における子どもたちの交流拠点の提案

中井研究室 下山 智加

研究概要：普段目にしてはいるまちの風景は建物や樹木、道路などの様々な環境要素で構成されている。中でもそのまちのランドマークとも言える駅や電車などの鉄道インフラは人々にとって身近な存在であると同時に線状の大きなスケールを有し、また走る電車の動きがあることでまちの風景に変化を与える重要な要素となっている。こういった鉄道インフラを含むまちの景観を観察することで、まちにおける駅のランドマーク性を見直すきっかけとなると考え、それに関する研究を行った。

研究目的：本研究では地形が特徴的な駅の中でも四方向が斜面に囲われていて、駅周辺で駅や電車が観測できる点が多くみられるJR京浜東北根岸線山手駅と京急本線弘明寺駅を対象に駅および線路、電車が見える、駅周辺の道路から撮影した風景全40事例の分析をし、鉄道インフラを含むまちの景観の構成の一端を明らかにするとことを目的とし、それを踏まえた提案を行う。

研究成果：



苦勞した点や感想など：全体の計画は納得したものとなったが、交流拠点の平面計画をもう少し駅や電車の景観を楽しめるようにデザイン出来たら良かった。
また、現地の人へのヒアリングや山手地区の敷地調査も詳しく行って、提案出来れば良かったと思う。

学部時代の卒業設計は提出期限ギリギリで焦ってしまった失敗があったので、その時よりも作業は計画的に進めることが出来、経験を活かした修士設計だった。